平成25年度「全国学力・学習状況調査」における
中島中学校の結果の分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成２５年４月２4日（水）に、３年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「児童生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

１　調査の目的

（１）　義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
（２）　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
（３）以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第６学年、中学校第３学年の原則として全児童生徒
・中島中学校では、３年生　４９名

３　調査内容

（１）教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語Ａ・数学Ａ】	主として「活用」に関する問題 【国語Ｂ・数学Ｂ】
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

（２）　児童生徒質問紙調査

児童生徒質問紙調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

平成２５年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

大 阪 市 立　中　島　中 学 校	生徒数	４９名

平均正答率（％）

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	72.5	64.9	54.9	25.8
大阪市	72.2	61.0	59.6	37.1
全国	76.4	67.4	63.7	41.5

平均無解答率（％）

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	2.4	1.0	4.1	20.6
大阪市	3.6	4.7	7.2	20.9
全国	2.4	2.8	5.3	16.7

結果の概要

○主として基礎的・基本的な「知識」を問うA問題は、国語で大阪市平均と同等の数値、数学で約5ポイント下回る数値を示す結果となった。
○主として知識を「活用」する力を問うB問題は、国語で大阪市平均を約5ポイント上回る数値、数学で大阪市平均を約10ポイント下回る数値となった。
○数学Bを除く平均無回答率の低さが示すように、前向きに粘り強く学習に取り組む姿勢がみられる。しかし、数学Bの正答率の低さ・無回答率の高さは「活用」する力に課題があると捉えている。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

○本校では、ここ数年来、学びの形態の工夫改善に努めてきた。一斉指導やグループ学習、個に応じたきめ細かい指導を行うことで、「学びの楽しさ」「学びの豊かさ」「学びの強さ」を追求する授業改善を図ってきた。また、小規模校であることや一小一中の関係性の利点を活かし、教科によっては小学校と中学校の教員が相互協力体制を築き、教科専門性や追指導的なかかわりを持つことで、「中１ギャップ」の解消にも成果をあげてきた。結果として対象生徒（母集団）が少ないいため、単純な経年比較はできないが、年々授業規律も保たれ落ち着いた学習環境の中で学ぶことができているので、着実に学力向上の手ごたえを感じてきている。

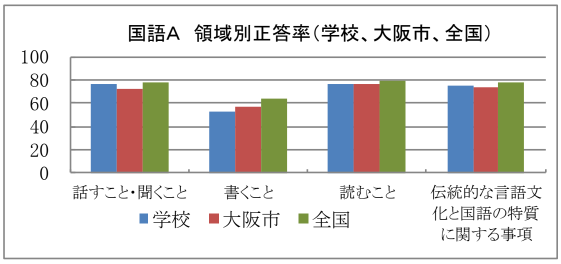
○来年度の全市募集施設一体型小中一貫校「むくのき学園」の開校に向け、９年間で系統立てた学習計画の企画・立案、協働授業や少人数授業、ICTを活用した授業等、さらなる学習指導における新しい取組みを進めている。このような継続したきめ細かな指導に加え、グローバル化・情報化時代を生き抜くために必要な「キャリア教育」を教育実践の軸として位置づけ、学びの必要性を感じ取らせながら「生き方」の教育を今後も深化充実させたい。

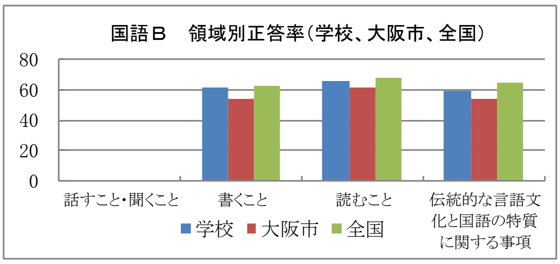
【国語】

結果の概要
〇全体としては、「全体の概況」に記述したとおりであるが、国語においては、全国平均には及ばないものの、大阪市での平均的な学力は達成しているといえる。
〇領域別の正答率も、それぞれに全国平均には及ばないものの、ほぼ大阪市平均と同等の数値かそれを上回る数値を達成している。ただし、「書くこと」はA問題では大阪市平均を下回っているが、B問題では大きく上回っており一概に「書くこと」が劣っているとも言いがたい。

A　問　題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	4	76.1	73.1	77.6
	書くこと	4	52.8	57.3	64.5
	読むこと	6	76.1	76.8	80.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	18	74.9	73.9	77.5

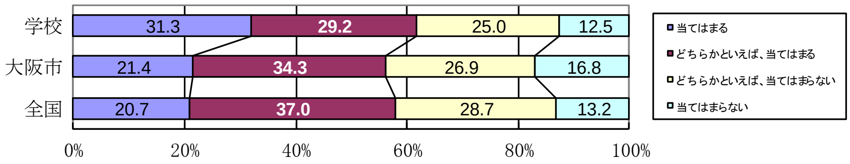
B　問　題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	0	－	－	－
	書くこと	3	61.4	54.0	62.7
	読むこと	8	65.6	61.9	67.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	59.1	54.2	64.6



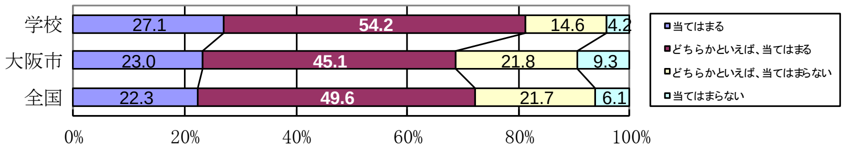


国語に関する「生徒質問紙」

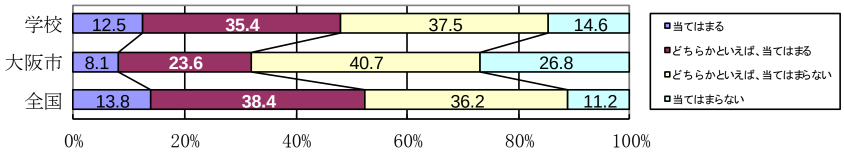
Ⅰ53　Ⅱ52　Ⅲ63
国語の勉強は好きですか



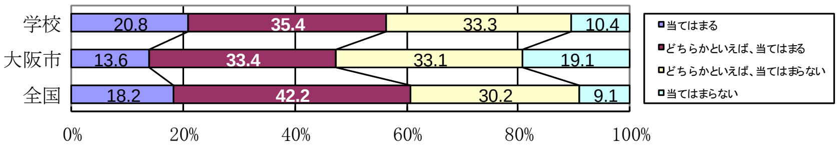
Ⅰ55　Ⅱ54　Ⅲ65
国語の授業の内容はよく分かりますか



Ⅰ58　Ⅱ57　Ⅲ68
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



Ⅰ60　Ⅱ59　Ⅲ70
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか



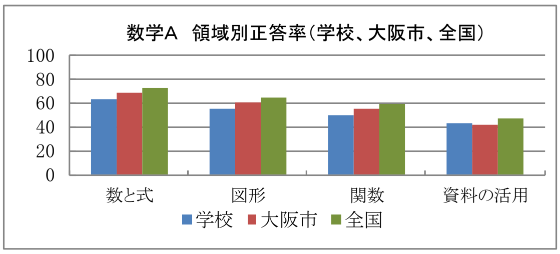
成果と課題
〇特徴的なことは、生徒質問紙における国語に関する質問への回答である。「当てはまる」もしくは「どちらかといえば当てはまる」との回答が大阪市平均と比較してたいへん高く、国語の学習への興味関心および魅力ある授業の創造はもちろんのこと、習熟度別少人数授業などの継続したきめ細かい学習指導の成果といえる。
〇「書くこと」や「話すこと」も大阪市平均を上回っており、大きな課題は見当たらない。

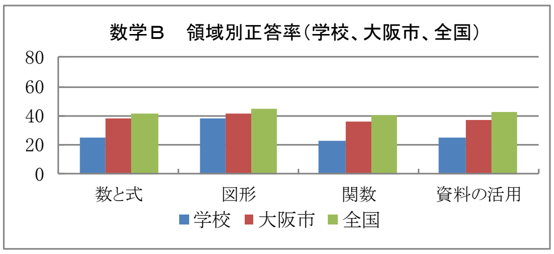
今後の取組
〇習熟度別少人数授業等、きめ細かい学習指導を継続し、個の課題に応じた指導をより充実させる。
〇タブレットPCをはじめとするICTを活用した授業でより効率化した授業や、新しい学習形態に積極的に取組む。
〇さらに「書くこと」や「話すこと」による表現の機会を授業の中でより充実させていく。

【数学】	結果の概要 〇全体としては、「全体の概況」に記述したとおりであるが、数学においては、全国平均はもちろん大阪市平均も下回る結果となっている。 〇領域別の正答率は、それぞれ、大阪市平均からみてA問題で約5ポイント、B問題で約12～13ポイント下回っており、領域別による顕著な傾向は薄い。B問題での図形の領域が他の領域に比較して正答率が高いが、A問題での数値をみると、特に図形分野が強いとも言いがたい。

A 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と式	11	63.2	68.6	72.7
	図形	12	55.4	60.8	64.6
	関数	9	49.5	54.7	58.7
	資料の活用	4	42.4	42.3	46.8

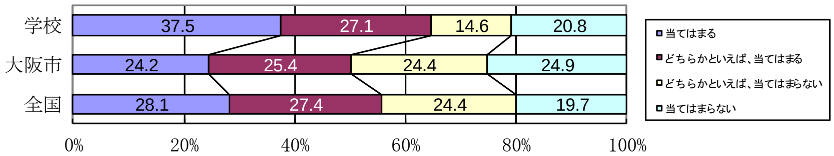
B 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と式	5	25.2	37.6	41.7
	図形	2	38.0	41.0	44.8
	関数	6	22.8	35.4	40.0
	資料の活用	3	24.6	37.1	42.2



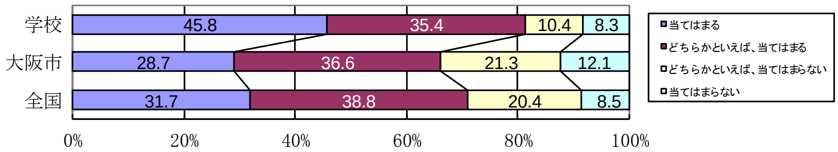


数学に関する「生徒質問紙」

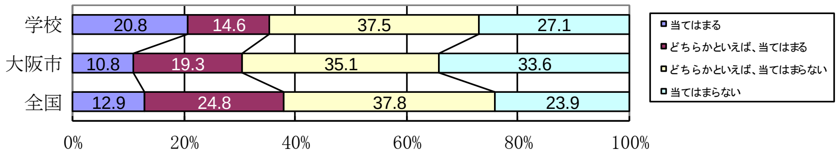
Ⅰ73 Ⅱ62 Ⅲ73
数学の勉強は好きですか



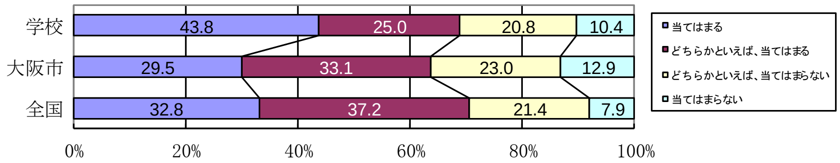
Ⅰ75 Ⅱ64 Ⅲ75
数学の授業の内容はよく分かりますか



Ⅰ78 Ⅱ67 Ⅲ78
数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



Ⅰ81 Ⅱ70 Ⅲ81
数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか



成果と課題

〇国語と同様に、生徒質問紙における数学に関する質問への回答では、「当てはまる」もしくは「どちらかといえば当てはまる」との回答が大阪市平均と比較してかなり高い。数学の学習への興味関心および魅力ある数学の授業の創造はもちろんのこと、習熟度別少人数授業などの継続したきめ細かい指導の成果といえる。
〇全体としては反復学習や発展的学習の指導に一層の努力が必要である。

今後の取組

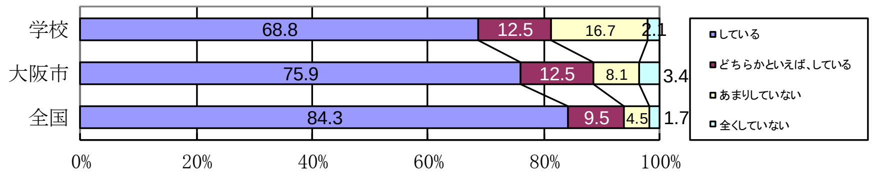
〇習熟度別少人数授業等、きめ細かい学習指導を継続し、個の課題に応じた指導をより充実させる。
〇タブレットPCをはじめとするICTを活用した授業でより効率化した授業や、新しい学習形態に積極的に取組む。
〇学力到達度が低い大きな一因である小学校段階からのつまずきを改善するために、小中一貫校においては、小学校・中学校教員の協働授業のあり方を研究し進めていく。

基本的生活習慣・自尊感情・規範意識

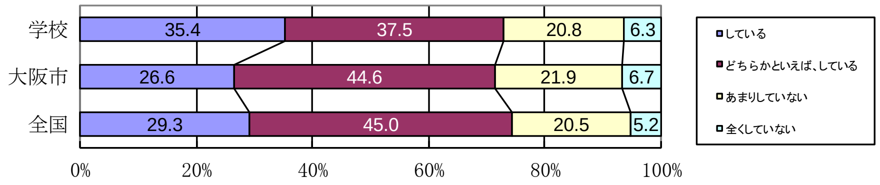
結果の概要
〇下記に示した朝食に関する質問で朝食を十分に摂らない生徒の割合が、大阪市平均と比較してかなり高いことが気になるところである。ただ、記載していない「普段、保護者と一緒に夕食を食べる」という質問や、下記に示した「毎日、同じくらいの時間に寝ている」という質問では大阪市平均を上回る数値となっており、基本的生活習慣が確立されている生徒が多数であると言える。

〇特徴的なことは、下記に示した「自分にはよいところがある」という質問の数値の高さである。また、記載していない「学校に行くのは楽しい」という質問や「ものごとを最後までやり遂げてうれしかった」という質問でも、大変高い数値を示しており、自己肯定感や自己有用感・達成感や成就感、学校生活への満足度は大変高いといえる。

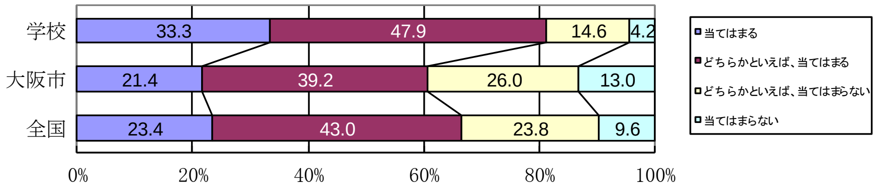
質問番号	質問事項
Ⅰ 1 Ⅱ 1 Ⅲ 1	朝食を毎日食べていますか



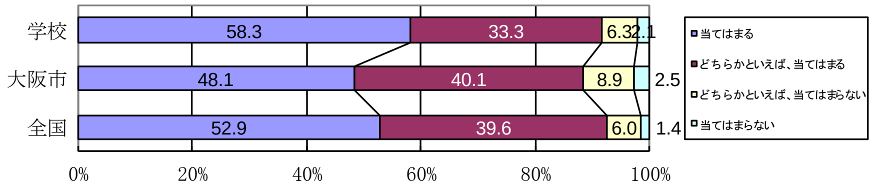
質問番号	質問事項
Ⅰ 2 Ⅱ 2 Ⅲ 2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



質問番号	質問事項
Ⅰ 6 Ⅱ 6 Ⅲ 6	自分には、よいところがあると思いますか



質問番号	質問事項
Ⅰ 44 Ⅱ 41 Ⅲ 45	学校の規則を守っていますか



成果と課題
〇保育所・小中学校が連携しての食育の推進を行っており、食生活に対する意識は向上している。
〇全体として「寄り添いながらも厳しく」というきめ細かい生活指導を継続して実践しており、そのことが前述のような自己肯定感や自己有用感・達成感や成就感、学校生活への満足度の高さに結びついている。
〇規範意識をより醸成させ、「自立」と「自律」をめざした学校生活を送らせたい。

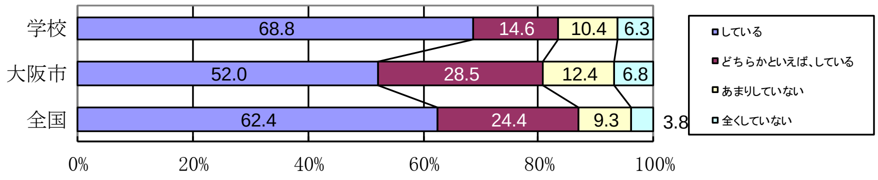
今後の取組
〇小中学校が連携しての食育、および「寄り添いながらも厳しく」というきめ細かい生活指導を継続していく。
〇互いの違いを認め合い、自他の尊重が図れるような集団づくりをより一層進めていく。そのための行事や教育活動の精選および充実を図っていく。

家庭学習・読書・学びの質の改善：言語力の育成

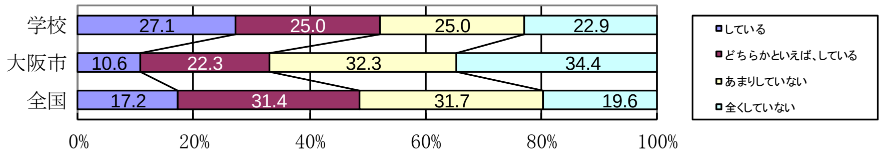
結果の概要

〇下記に示した家庭学習の習慣についての質問は大阪市平均よりも高い数値を示している。
〇「読書が好き」という質問への回答は、大阪市平均のみならず全国平均も上回る数値となっており、特筆すべき数値と言える。
〇言語活動の充実についての質問も、大阪市平均のみならず全国平均も上回る数値となっており、授業における少人数での授業形態が多いので、言語活動が大変充実している状況を示している。

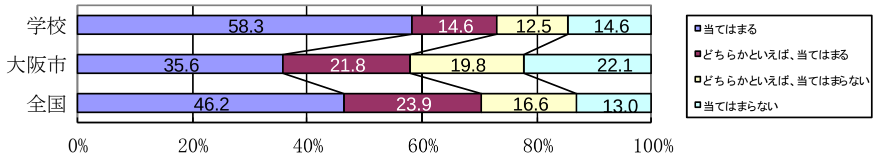
質問番号	質問事項
Ⅰ30　Ⅱ25　Ⅲ35	家で、学校の宿題をしていますか



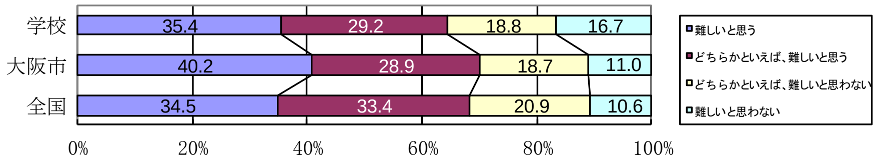
質問番号	質問事項
Ⅰ32　Ⅱ27　Ⅲ37	家で、学校の授業の復習をしていますか



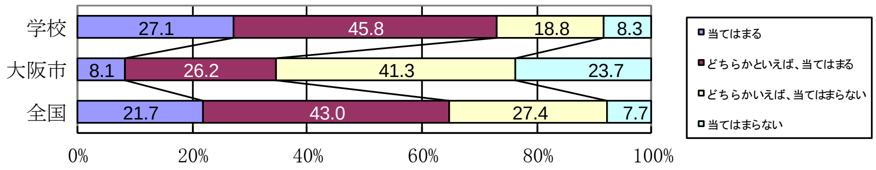
質問番号	質問事項
Ⅰ56　Ⅱ55　Ⅲ66	読書は好きですか



質問番号	質問事項
Ⅰ52　Ⅱ51　Ⅲ61	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しいと思いますか



質問番号	質問事項
Ⅰ50　Ⅱ48　Ⅲ57	普段の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか



成果と課題

〇毎日の読書活動、授業における言語活動を充実させる取組みを粘り強く継続してきた結果が、前述の数値に結びついている。
〇家庭学習の習慣化をめざし、さらに自学自習ができるような宿題などの工夫が必要である。
〇より言語力･表現力を高めることをめざしていきたい。

今後の取組

〇読書および授業における言語活動充実の取組みは、さらに粘り強く継続していく。
〇家庭学習の習慣化については、宿題などの工夫のほか、保護者の理解と協力をより一層呼びかけていく。
〇授業における言語の習得、表現力を高める機会は現状でも大変充実しているが、ICTの活用など新しい指導法の研究も進めていく。